

第32回泌尿器科漢方研究会学術集会

代表幹事:堀江重郎(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

日時:2015年6月20日(土) 13:00~18:05

会場:コクヨホール(東京都)

1. LUTS (主に過活動膀胱) に対する 種々の漢方薬の使用経験

村上クリニック

村上 泰秀

現在 LUTS に対しては、様々な西洋医学的アプローチが成されており、それなりの成果もあげている。特に抗コリン剤は過活動膀胱の治療の主流を占めているが、尿閉、口渴などの内服薬による有害事象も比較的多くみられるので治療に窮する場合もある。そのような時に漢方治療が効を奏する事があり、また当初から漢方薬を用いて過活動膀胱の症状だけでなく全身状態の改善がみられ患者の QOL が改善し喜んでもらえる事もある。そのような観点から当院では、泌尿器科の治療に漢方薬を用いているのでその使用経験を報告する。

漢方製剤は補中益気湯、清心蓮子飲、八味地黄丸、牛車腎気丸、竜胆瀉肝湯、加味逍遙散、加味帰脾湯、五積散、当帰芍薬散、桂枝茯苓丸、猪苓湯など多岐にわたるので私なりに分類整理している。例えば腹圧性尿失禁で膀胱下垂を認め、その他の臓器に胃下垂による慢性胃炎などの下垂症状がある場合は、補気の補中益気湯、更年期障害の症状を伴う血虚の状態では当帰芍薬散など、いらいら等の神経症状を伴う頻尿には清心蓮子飲、再発を繰り返す膀胱炎には猪苓湯などである。